

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

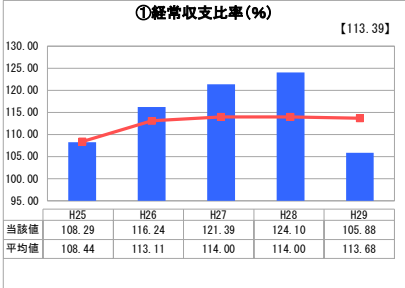
鳥根県 出雲市

| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分                         | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------------------------------|--------|
| 法適用       | 水道事業        | 末端給水事業 | A3                             | 非設置    |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円) |        |
| -         | 60.53       | 98.92  | 2,896                          |        |

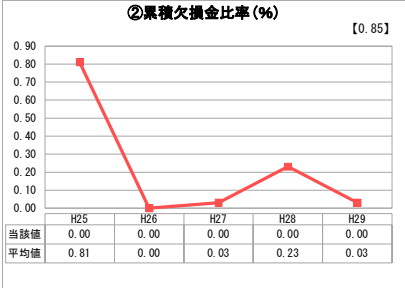
| 人口(人)     | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )   |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 175,227   | 624.36                   | 280.65                     |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km <sup>2</sup> ) | 給水人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 144,283   | 236.43                   | 610.26                     |

|                |
|----------------|
| ■ 当該団体値（当該値）   |
| — 類似団体平均値（平均値） |
| 【】 平成29年度全国平均  |

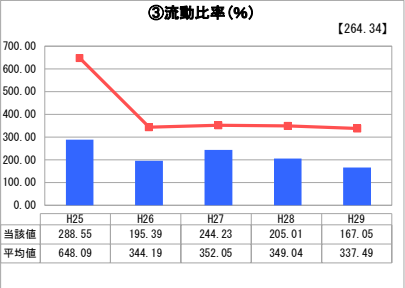
## 1. 経営の健全性・効率性



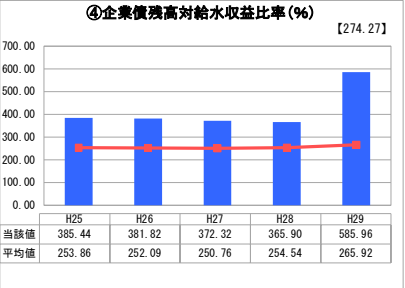
「経常損益」



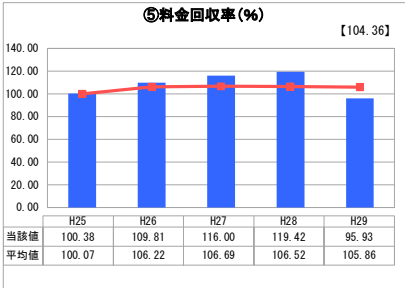
「累積欠損」



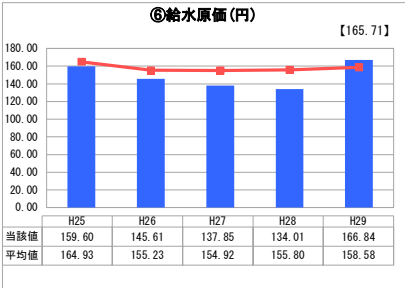
「支払能力」



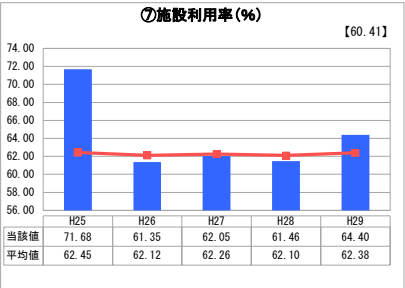
「債務残高」



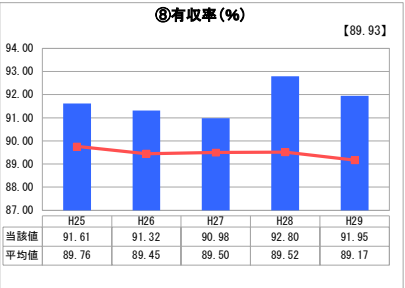
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

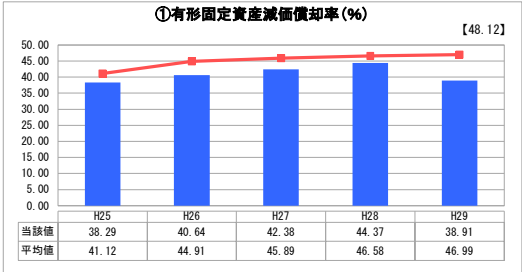


「施設の効率性」

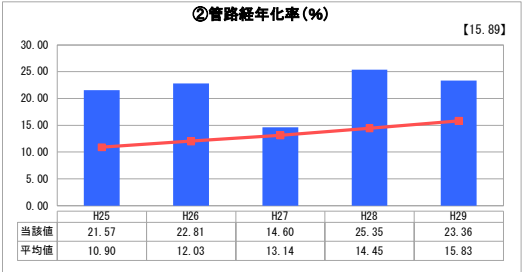


「供給した配水量の効率性」

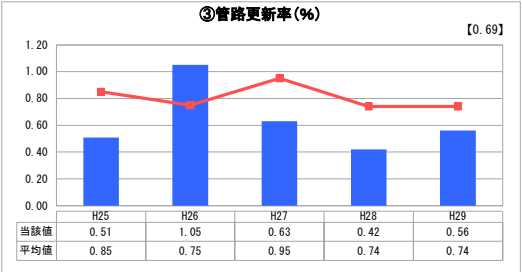
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率 簡易水道事業の統合によって、水道料金や一般会計繰入金等の収入が増加するとともに、維持管理費や減価償却費等の費用も増加した。収入より費用の増加が大きかったため、平成28年度より低くなり、類似団体を下回った。

②累積欠損金比率 欠損金がないため表示されない。

③流動比率 簡易水道事業の統合による企業債残高の増加に伴い、1年以内の償還額が増高したため、平成28年度より低くなった。また、類似団体を下回っている。

④企業債残高対給水収益比率 簡易水道事業の統合による給水収益の増加に比べ、企業債残高の増加が大きかったため、平成28年度より高くなった。また、類似団体より企業債残高が多いため上回っている。

⑤料金回収率 簡易水道事業の統合によって、施設の維持管理費等の給水費用が増加し、給水原価が上昇したため、平成28年度より低くなり、類似団体を下回った。

⑥給水原価 多くの施設を維持するため給水費用が増加し、平成28年度より高くなり、類似団体を上回った。

⑦施設利用率 施設の効率的な運用により平成28年度より向上し、類似団体を上回った。

⑧有収率 従来から有収率の低い簡易水道事業を統合したことにより、全体比率が低下し、平成28年度より下がったが、類似団体を上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率 償却対象資産の減価償却の割合が下がったため、平成28年度より低くなった。また、類似団体より資産の老朽度が低いため下回っている。

②管路経年化率 管路整備を進めた簡易水道事業を統合したことにより、法定耐用年数を超過した管路延長の割合が下がり、平成28年度より低くなったが、類似団体より管路の老朽度が高いため上回っている。

③管路更新率 総管路延長のうち更新した管路延長の割合が上がったため、平成28年度より高くなったが、類似団体を下回っている。

### 全体総括

平成29年度は、全ての簡易水道事業を統合した初めての決算であり、平成28年度と比較すると数値が大きく変動した。

経営状況については、管理施設が増えたため維持管理費等が増加し、収益よりも費用の増加割合が大きくなり、①経常収支比率や⑤料金回収率が下がったほか、④企業債残高対給水収益比率が上がった。

老朽化の状況は、類似団体に比べ管路経年化率が高く、管路更新率は低くなっているため、管路の更新需要が今後一層増える見込みである。

このように経営環境は厳しい状況であるが、今後は、出雲市水道事業ビジョンに基づき、事業費を平準化して、計画的な施設の更新及び耐震化の向上に取り組むとともに、料金改定等による収入の確保と経費の削減に努め、経営の健全化を図ることによって、安定的な事業運営を行っていく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。